

三
慶應四年秋八月是ヨリ先キ三良三條公ニ隨テ

築前ノ國太宰府ニ在リ是ニ於テ薩州ノ藩医

前田杏齋ト同行太宰府ヨリ長岑ニ至ル途大村

ヲ經テ楠本隆重ニ面會ス蓋シ邪禰教排作ノ

丁ヲ謀ルナリ同九月土佐ノ浪士坂本龍馬此特梅谷大

師ト表ニ陸奥陽之助中島信行等ト共ニ汽船ニ

搭シ高智ニ至ル陸奥ハ馬関ヨリ上陸ス高智ニ泊スル丁殆ト二旬

再ニ汽船ニ駕シ京師ニ至ル時正ニ十月上旬ナリ此

時偶ニ後藤象二郎藩命ヲ以テ徳川將軍ニ建

白スル所アリ徳川家終ニ大政返上ノ舉ナリ西郷

小松後藤等ヲ二城ニ招キ此事ヲ議ス三良京師滞在申ハ土佐藩小澤庄次ト偽稱ス

ト共ニ河原町三條下ル一高戸將箇由屋ニ旅寓ス因

慶應四年三秋八月是ヨリ先キ三良三條公ニ随テ

築前ノ國太宰府ニ在リ是ニ於テ薩州ノ藩医

前田杏齋ト同行太宰府ヨリ長岑ニ至ル途大村

ヲ經テ楠本隆正ニ面會ス蓋シ邪禰教排作ノ

下ヲ謀ルナリ同九月土佐ノ浪士坂本龍馬此特梅谷大

師ト表名入陸奥與陽之助中島集行等ト共ニ汽船ニ

搭シ高智ニ至ル陸奥ハ馬関ヨリ上陸ス高智ニ泊スル下死ト二旬

再ニ汽船ニ駕シ京師ニ至ル時正ニ十月上旬ナリ此

時偶ニ後藤象二郎藩命ヲ以テ徳川將軍ニ建

白スル所アリ徳川家終ニ大政及上ノ舉アリ西郷

小松後藤等ヲ二城ニ招キ此事此後本

ト共ニ河原町三條下ル一高戸此後本ヲ寓ス因

予大政返上後朝庭ノ措画如何ヲ議スニ良曰
ク徳川家既ニ悔悟ノ実ヲ表シ大政返上ノ
挙ニ及フ實ニ千古未曾有ノ時機ナリ此時
當テ王政一新上下更始彼我ノ別ナク公明正大ノ
措置ナクハアルヘカラス其端緒ニ先ツ官制ヲ改メ
從來門閥親族ノ弊習ヲ一洗シ士庶人トイ
ヘテ朝政ニ系セシメスニアルヘカラス然レ氏今日ノ官名
ヲ俄カニ廢スル能ハスニ姑ク其存ニ存シ一ノ爵
号ノ如ク見做シ別ニ職名ヲ置キ公卿諸侯
大夫士庶人ノ才能アル者ヲ登庸スヘシト阪本曰
ク予ノ言誠ニ是ナリ予之ヲ後藤ニ謀ラントス
予ニ試シ之ヲ草ナセヨニ良是ニ於テ左ノ文ヲ
草ナス

太政官

關白

一人

親王公卿諸侯ノ名望アルモノヲ以テ之ニ充ツ
至尊ヲ輔翼シ萬機ヲ關白ス

内大臣

一人

親王公卿諸侯ノ名望アルモノヲ以テ之ニ充ツ

關白ノ副貳トシ萬機ヲ贊助ス

議奏

負數ナシ

親王公卿諸侯ノ才徳アルモノヲ以テ之ニ充ツ

萬機ヲ議定シ兼テ海陸軍會計外

國ホ諸職長官ヲ分任スヘシ

參議

負數ナシ

諸王公卿諸侯大夫士庶人ノ才能アズラ
以テ之ニ充ツ
萬機ニ糸與シ兼テ海陸軍會計外國
ホノ諸職ニ官ヲ分任スレシ

○其親王公卿諸侯ニテラサレハ議奏以上諸官
ノ長ニ任セサルハ親ヲ親ニ大臣ヲ敬スルノ意ナリ
其士庶人トイハレ氏系議諸官ノ次長ニテ得
ル廣ク天下ノ賢才ヲ登庸スルノ意ナリ今
試ニ其任ニ當ルモノノ姓名ヲ記セン

關白

三條實美

三條氏ハ夙ニ王威ノ振ガル慨憤シ殊ニ

先帝ノ敷慮ヲ奉ル百艱ヲ冒シ云々
大ニ天下ノ望ヲ掲ケリ此人ヲ除キ他ニ需
ムカラス

内大臣

徳川慶喜

徳川氏一旦方向ヲ誤ルトイハレ即今悔悟
ノ實効顯レ數百年ノ武微ノ王權ヲ
復シタル功アリ且諸侯中ノ人物此人
ヲ棄テ他ニ而ルナシ今日更始彼我ノ
別ナク公明正大ナク天下ニ表ルニ足レ
議奏

毛利

島津

容堂

蜂須賀

春山嶽

閑叟

宇和島

岩倉

烏丸

東久世

嵯峨

条議

西郷

少松

後夜

木戸

大久保

阪本

横井平四郎

三岡

廣沢

長岡良之

山内兵三

以上

右ノ草稿阪本龍馬之ヲ懐ニ後藤ニ議ス
 後藤藤之ヲ以テ山岩ニ送クヤ云
 以テ西郷ノ便船ヲ再ニ九州ニ下リ京師ノ形況ヲ
 條公ニ報ス其後阪本ハ土佐藩茶政ノ命ヲ受リ益
 ニ良ホノ説ノ行ハレシテ期ス然ルニ十月下旬ニ至リ

阪本河原町ノ旅寓ニ害ニ遇フテ聞ク即チ中
 共ニ大政ヲ議セシ旅寓醫地屋分ニ良時・病卧ニ
 甚メ痛悼且随テ向キニ草一スル所ノ官制改革
 事ノ論モ水泡ニ属スルカト夢寐歎恨措クス然ルニ
 十月下旬大山巖西郷後夜小氣船ニ搭ニ福岡ニ
 至ル京師大政返上後ノ景勢ヲ云フ則太政
 官ニ於テ總裁議定条議ノ三職ヲ置キ
 向キニ歴數スル所ノ人物大概ヲ其職ニ在リ
 ト是ニ於テ三良ホノ草一起スル所海峯分
 カ其効アルヲ知ル

右ハ勿ニ際筆記ナシ惟記憶ニ依テ之ヲ叙ス
 其文字人名ホニ至テハ小異ナキ能ハストイハ凡其

東久世

嵯峨

桑茂

西郷

小松

後夜

木戸

大久保

阪中

横井平四郎

三岡

廣沢

長岡良之り

山内兵三

以上

右ノ草稿阪本龍馬之ヲ懐ニ後藤ニ議ス
 後藤之ヲ以テ山石公ニ説クト云
 以テ三良再ニ九州ニ下心稟師形
 寓^寓木醬油屋ニ宿^宿遇^遇乃^乃三良甚^甚シ痛悼且
 向^向キニ草^草ヲスル所ノ官制改革論モ水泡ニ属スル
 随

阪本河原町ノ旅寓ニ害ニ遇^遇フ^フヲ聞^聞ク即^即チ中
 共ニ大政ヲ議セシ旅寓醬油屋^屋ニ三良時ニ病卧^卧ニ
 甚^甚シ痛悼且随^随テ向^向キニ草^草ヲスル所ノ官制改革
 論ノ論モ水泡ニ属スルカト夢寐歎恨措^措カス然^然ニ
 正月下旬大山坐殿西郷後道^道ハ汽船ニ搭^搭福岡ニ
 至^至ル京師大政返上後ノ景勢ヲ云^云フ則^則太政
 官ニ於^於テ總裁議定^定桑茂ノ三職ヲ置^置キ
 向^向キニ歴數スル所ノ人物大概^概テ其職ニ在^在リ
 ト是^是ニ於^於テ三良ホノ草^草ヲ起^起スル所ノ海峽分
 カ其効^効アルヲ知^知ル

右ハ向^向ノ際筆記^記ナシ惟^惟記憶^憶ニ依^依テ之^之ヲ叙^叙ス
 其文字人名ホニ至^至テハ小異^異ナキ能^能ハストイ^イハ凡^凡其

赤澤小澤在表

大和人事實ニ於テ肝膽ニ銘ニ天志ヲ示スル
所ナシ粗糲ナキコトヲ信スル
京師滞在録

明治十一年一月集誌

尾崎三良誌

大和人事實ニ於テ肝膽ニ銘ニ天志ヲ示スル
所ナシ粗糲ナキコトヲ信スル
京師滞在録
尾崎三良誌

太
政
官